

株式会社加藤製作所

岐阜・中津川市

「意欲のある人、求めます。ただし年齢制限あり。60歳以上の方」。2001年、新聞に折り込まれた求人広告チラシが、株式会社加藤製作所(岐阜県中津川市)の名前を全国に広めた。

同社は1888年創業のプレス板金加工会社。航空機や自動車などの部品を手掛け、高精度の金属加工を得意とする。現在の加藤景司代表取締役社長は4代目だ。

同社が高齢者の採用を考えたのは、海外製品との競争の中、利益を出し事業を拡大するには、土日祝日も工場の稼働率を上げる必要があったからだ。同市の調査で、大勢の高齢者が就業を望んでいるという実態を知り、高齢者限定の募集を決めた。

60歳以上を積極雇用  
高い意欲が現役社員を刺激

すると応募が殺到。2回の募集に応じた100人以上の中から15人を採用し、シルバー社員だけ

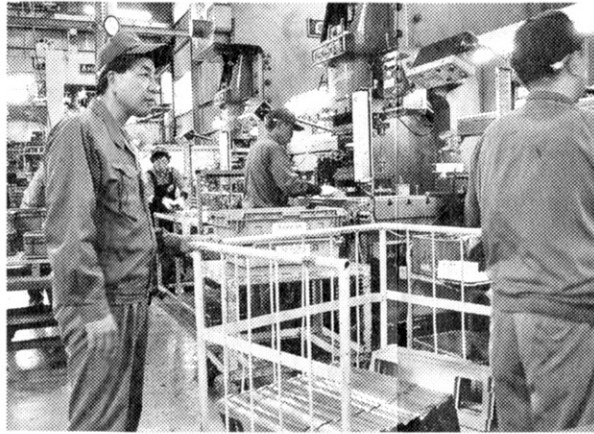
ゼロ。従業員がついて、基本から教えた。若者に比べ、仕事に慣れるまでの時間はかかったが、仕事への真剣な姿勢と熱意で、技能を身に付けていった。

一方で、シルバー社員に合わせた仕事の工夫や、環境改善を進めた。業務を切り分け、機械化できない定型作業を任せただけ、分かりやすい作業指示書の作成や工場内の段差解消、照明の照度強化なども実施した。

土日も稼働する「コンビニ工場」は、リーマンショックで中断せざるを得なかったが、シルバー社員は平日勤務に移動した。現在、110人の社員のうち、シルバー社員(定年延長者を除く)は37人。なくてはならない存在だ。現役社員のモチベーション(勤労意欲)向上にもつながっている。

高齢者の雇用に積極的に取り組んだことは、コスト減や納期短縮を通じて同社の業績向上に反映。12年までの6年間で、売上高は年平均7000万円の伸びを記録している。

同社は、求人広告に応募した高齢者全員の書類を大切に保管。申込書には「ぜひ一生懸命働きたい」「チラシを見てすぐは順調だった」と、熱い気持ちを書かれている。加藤社長は、「私の宝物です」とほほ笑んだ。



シルバー社員が多く働くプレス加工の作業を見守る加藤社長

「高齢者パワー」を生かす

人口減少が進み女性や高齢者の雇用が注目されている。高齢者が働き続けやすい職場環境の整備が評価され、2013年度「ダイバーシティ企業100選」に選ばれた中小企業の実践を紹介する。また高齢者雇用について法政大学大学院の藤村博之教授に見解を聞いた。